

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070200854		
法人名	医療法人 若愛会		
事業所名	グループホーム けやきの杜		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市若松区西小石町17-27 (電話) 093-751-1020		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成22年2月12日	評価確定日	平成22年3月10日

【情報提供票より】(H22年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤	12人, 非常勤 12人, 常勤換算 17人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築 / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	3 階建ての	1 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,400 円		

(4) 利用者の概要 (1月15日現在)

利用者人数	27 名	男性	2 名	女性	25 名
要介護1	5 名	要介護2	8 名		
要介護3	7 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	71 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	戸畑共立病院、若戸病院、田中歯科医院、山内クリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人若愛会山内クリニックの併設型グループホームけやきの杜(3ユニット)は、「デイサービスけやきの杜」と同じ建物の中にあり、1階ホールで行き来できる。入居者が体操やレクリエーションに合流し、地域からデイサービスに来られる方々とふれあい楽しむこともできる。事業所の理念にそって、入居者が安心して居場所づくりができるよう特に配慮し、転倒にも十分注意し、身体リスク委員会を設けて法人全体で話し合うなど、職員みんなの意識を高めている。個別の処遇と、ご家族とのかわりを大切にしているホームである。生活空間は天窓からの採光によって明るく、広々としたガーデンテラスや浴室の床暖房など設備も整っている。入居者の希望するケアプラン(介護計画)によって個別的な介護が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「外出支援についての取り組み」が前回の改善課題として挙げられたが、新型インフルエンザが流行したこともあり、予防のため外出を控え安全に過ごしていただいた。その後の取り組みとして、行事委員会で年間行事をデイサービスと合同で行ったり、ご家族のアンケート調査で得られた意見を取り入れて改善計画シートを作成する等して、今後の取り組みを計画している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各階の職員代表3名で評価をし、それを管理者がとりまとめ、取り組み内容として「チームで作る利用者本位の介護計画」を挙げている。ご家族の希望を組み入れるために、先にアンケート調査を実施し、希望を把握した上でチームで計画作成に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2か月に1回、民生委員、地域包括支援センター、近隣住民、利用者家族が参加して開催している。デイサービスの報告、グループホームの現状、行事の報告、事故事例の報告、家族アンケート結果等を報告している。地域包括支援センターの提案により、身体リスク委員会で、事故事例やヒヤリハット事例の改善策を職員で検討するようにした。転倒予防では個別にセンサーを取り入れるなどの改善策によって、サービスの質の向上が図られている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族の意見や苦情、不満については全て記録し、みんなで解決のために話し合っている。また、運営推進会議においてそれらの記録を報告し、苦情や意見についてどのように職員が対応したかなどを報告しており、ご家族の満足度を高めるよう、改善計画などに反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>敬老会や文化祭に参加する等、入居者の家族の協力を得ながら地域の人と交流がなされている。外出支援についての取り組みとして、買い物支援や誕生日を迎えた人の外食介助が行われている。入居者が行事に参加し楽しそうに過ごされている様子を記した広報誌を2か月に1回地域の方に配布し、ホームページは月1回更新している。介護教室においては一般の方にも呼びかけ、家族の方も参加した「認知症について」の勉強会を実施している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心して落ち着く自分の居場所づくり」のための支援、「人とのふれあいを大切に、明るい生活を過ごせるよう心に寄り添った介護」、「人としての尊厳を大切に自分らしく生きがいを持って暮らせる日々を支えます」という理念はグループホームの玄関にA4判サイズの用紙で掲示されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームへ入った瞬間より明るい雰囲気を感じられる。入居者の方々が希望する生活を実現するため、管理者と職員が一体となって理念に沿った介護が日々行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会や文化祭への参加は、家族の協力も得ながら行っている。また、地域の保育園児の訪問時に頂いた手作りの飾り物がホーム内に飾られていた。自治会には入っていないが、近隣住民が運営推進会議に参加協力している。地域には広報誌を配布している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニットの代表者に記入をもらい、その後具体的に管理者がまとめ、改善目標を話し合った。具体的に取り組むための目標達成計画も市に提出されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの現状、入居者へのサービス状況、サービス評価の結果、今後の課題としての改善計画などが報告されている。推進委員会からの意見を取り入れ、事故事例の詳しい状況の記録や改善策による対応なども報告されている。ヒヤリハット事例を検討する「身体リスク委員会」を設け、法人全体で検討しサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の「介護相談員派遣事業」については、2年間利用したが、現在は導入していない。市町村から提供される苦情相談パンフレットなどは各ユニット玄関出入り口の台の上に配布資料として常時置かれ、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度については、市役所に研修をお願いし管理者、職員も参加した。入居者1名については入居以前より成年後見制度を利用している。研修と実践の場で職員も身近に学び支援が行われている。		
4. 理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌は、本人、ご家族の了解のもとに作成されている。安心してホームで過ごされている入居者の方々がカラー写真で紹介され、また家族用に、個別に郵送でご本人を中心に写した写真で報告するなど、きめ細かに行われている。職員の異動については、交代時に直接の紹介などで報告がなされている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見や苦情などを見逃さないために全て記録し、話し合いの場を持ったり、改善計画を立てたりしている。また、運営推進会議で家族アンケート結果を取りまとめて報告し、ご家族の満足度を高めるよう、サービスの質の向上に努めている。		苦情や対応等を書面に細かく記入し、解決されている。細かい配慮と試行錯誤されながらの対応が覗える為、引き続き家族の満足度を高めていけるよう期待される。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による入居者へのダメージへの対策として、職員は全階(1階～3階)を兼務し、ローテーションで入居者と接し、全員と馴染みの関係性を保持している。その中において、数名ずつの方の担当者としての役割を担い、担当している入居者についてはより詳しく理解し対応していくシステムで、ダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようになっている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	20代から60歳代と幅広い年齢の方が採用されている。それぞれの能力を活かしながら働けるよう、採用時も、人柄や意欲があるかを重視している。研修会や勉強会の支援も行って、職員の資格要件を高めていけるよう配慮がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権を尊重した声かけや態度などについて、勉強会や学習の場を繰り返し設けており、実際に入居者に対して失礼のないように対応している。必要と思われる場面があったときは、管理者によって指導が行われている。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基本介護チェックシートや個別のマニュアルなどを参考にして新人研修を行っている。中途採用者も先輩について働きながら学んでおり、徐々に仕事に慣れてもらうよう指導している。法人全体で行われる研修や内部の学習会に参加するなど、向上心を持って働き続けられるよう職員支援が行われている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に参加している。若松区の実務者連絡会・地域ケアなどにも参加し、研修会では他事業所の職員と交流している。相互訪問による交流は実現していない。職員体制・相手方施設との協力体制などが整えば、今後の取り組みとして検討している。		他事業所のグループホームを見学し、相互交流することによって、事業所の良い点をお互いが吸収でき、事業所の発展と入居者に対するサービスの質の向上に反映してくるものと考えられるため、条件を整え相互訪問が実現するよう期待される。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域に住む人については、入居前にデイサービスを利用してもらい、職員や入居者とも少しずつ顔なじみの関係づくりをして、家族の要望に合わせてながら、柔軟に対応している。空きベッドを利用したショートステイによって、徐々に馴染んでもらうなどの工夫が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者に対して、人生の先輩として敬意を持って接している。時には悩みを打ち明けたり励まされたりで、教職におられた方は、しっかり聞き役になり、職員を慰め、お互いに助け合って日々過ごしている。ぜんざいを作る時の甘さ加減などで「もう少しお砂糖を入れる」等の適切な助言をしてもらうなど、学んだり支えあう関係を築いて共に過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際に本人・家族の思いや希望をたずねている。生活の習慣や病気についての対応など、必要な情報を後々の計画に反映できるよう事細かに記録されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式によるアセスメントをとり入れ、情報を大切に記録している。家族から情報収集した上で介護計画を作成し、サービス提供が行われている。家族の意向を活かすため、事前にアンケート調査を実施した上で、個別介護計画をチームで具体的に話し合うという方針を立てている。		家族の意見や意向をアンケートでたずね、ご家族の希望を反映した計画作成を目指している。アンケート様式についてはまだ不明であるが、できるだけ家族が介護計画作成に参加できるよう、運営推進会議での意見を参考に、本人の思いが活かされ、家族と一緒に作る個別介護計画作成が期待される。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態が変化したり、要介護度認定が変更になった時には、家族と話し合って介護計画の見直しが行われている。月に1回はモニタリング(状況把握)を行い、記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ法人が行っている老人保健施設、介護老人福祉施設、デイサービス、居宅介護支援、訪問介護事業などの関連施設を活かして、さまざまな状況に応じた対応ができる。在宅介護を希望して退居する場合の具体的相談を受けたり、施設介護が必要となった場合は、入所する際に主治医と相談して対応していくなど、支援が柔軟に行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する主治医への受診を支援している。透析治療の必要な入居者には、通院の送迎などを行っている。家族の協力を得ながら、納得の得られる受診介助が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>早い段階から、入居者が重度化したときの対応についてかかりつけ医や本人・家族と相談を行っており、書面の準備もされている。職員への対応や教育も進めており、要望があれば受け入れは可能となっているが、実際に看取り介護を行った経験はない。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>広報誌などに載せる写真は家族の了解を得た上で掲載される。入居者へは、その人の状態に応じて身体を動かし活動できるように声かけが行われ、排泄交換も、トイレやおむつ交換など個別に対応している。居室に戻れない時は、カーテンを引き、人の目に触れないよう配慮をした中で、おむつ交換が行われていた。記録も大切に保管されている。</p>		
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員は1階から3階までのユニットをローテーションで勤務している。各階には1名ずつ計画作成担当者がいて、入居者の希望を把握し、その人らしい過ごし方をケアプランに盛り込み、実行している。できるだけ行事には全員参加したり、積極的に散歩が必要な人には屋外散歩で気晴らしをしていただけるよう、各階の職員配置を時間によって分けるなど工夫している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>あるユニットでは、食事介護に家族が訪れ、家族的な雰囲気の中で笑いのある食卓だった。別のユニットでは、みんなで餃子作りをしていた。ご飯、味噌汁、餃子、あえ物などの料理を載せたお盆を各自が持って、しっかり安定して歩き、テーブルの自分の場所に運び、満足そうに食事されている。職員の働きかけで、3度の食事時を利用しながら生活リハビリが行われ、入居者も喜んでおられる。</p>		
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>浴室は床暖房を導入し、ハード面に配慮されている。一人ひとりの状態に応じて入浴が行われるが、基本的には2日に1回となっている。入居者の気分やその日の状態によって、清拭に変えて対応するなど、無理強いしないように気持ちを尊重し、主治医の意見も踏まえながら一人ひとりの清潔管理に努めている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の興味のあることに結び付けてケアプランを作成し、支援している。デイサービスで地域の馴染みの人と交流し一緒に体操やゲームを楽しみ過ごす人や散歩をして気晴らしをする人、短歌を作って広報誌に発表する人、家事の得意な方はおかずをつぎ分けたり、お茶を入れたり洗濯たたみをする等、職員の声かけで、みんなで協力しながらそれぞれの役割を担っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員体制と家族の協力により、敬老会や文化祭など地域行事に参加している。新型インフルエンザの流行で、例年よりも外出支援を控え、ホーム内のガーデンテラスで外気浴などが行われた。誕生月に該当する方々の外食支援が行われ、行事委員会で計画されたドライブなど行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は解放されている。2階3階のユニットは玄関を出てもエレベーターの操作が行われないと非常階段以外に戸外に出る事は出来ない。外に出たい方に、閉じ込められていると感じさせないように職員は気を配り、落ち着きそうにない方は散歩に同行するなど、細やかに配慮している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防職員の指導による訓練が行われている。地震や風水害に備え法人全体で水分、乾物、ごはんなど1週間分の備えが計画的に行われている。まさかの時の避難場所は、近くの小学校となっている。地域の人々の協力については今後の運営推進会議の中で、協力を呼びかけていく方針である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	透析治療の方や誤嚥しやすい方など、一人ひとりの状態に応じて、水分量チェックと栄養士の管理による食事が提供されている。また入居者全員について水分量や食事摂取量などが記録されている。栄養バランスも考えて献立が作成され、適切に栄養管理がされた中で支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、みんなの顔が向かい合う食卓や畳の上でテレビを見ながらくつろぐ場所がある。天窓から差し込む温かな日差しが室内を大変明るくしている。夏場の暑い時期はカーテンで日差しを調整している。ソファにゆったり座り、体操などされているフロアもある。ご飯時は、ご飯の炊ける匂い、おみそ汁の匂いがしてきて、生活感を感じながら過ごされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家から様々なものが持ち込まれ、個性が感じられる。家族が宿泊を希望されるときは、入居者の個室に簡易ベッドや布団が貸し出される。その人の状態に応じて、クローゼットに衣類を収め、あとは何も置かず、ベッドではなく「たたみ」を敷いただけの部屋もある。家族の希望や配慮されたものによってそれぞれに違いがみられる。居室に持ち込むものは、特に制限はされていない。		